



2週間前

明日で2週間前である。何の？ もちろん中間考査までである。

中学校までは、試験1週間前に勉強をはじめれば余裕だった諸君が多いはずだ。中には試験前日に復習すればOKという人もいるに違いない。しかし、日比谷には「そういう人」ばかりが集まっていることを忘れてはいけない。同時に、面接でも学級日誌でも話題になっているが、授業のスピードが中学校時代とは大違いなはずである。さらに言わせてもらえば、試験直前になると、学習計画表の範囲を終わらせるために、さらにスピードアップするなんてことが、どの科目でも考えられるのだ。つまり、中学校時代の経験をもとにして、教科書範囲の考査準備をしたのでは、到底追いつかないということである。

さらに、授業では扱っていない内容、例えば「国語総合」についていうと、現代文では『ちくま評論入門』が試験範囲になっているし、古典では小テストの形で少しずつ勉強している『古典単語』はともかくとして、漢文暗唱プリントが試験範囲に組み込まれていて、これについては、完全に自習しなければならないのである。

というわけで、そろそろ本格的に準備を始めないといけない時期になっているのである。まずは好きな科目から手をつけて、週末の土・日には、補習や部活と両立させながら、考査までの学習計画を立てることが必要だろう。そして、それをしっかりと実行することだ。誰も助けてはくれない。やるのは自分で

ある。(なお、昨年の考査問題例が『学習と進路』の巻末に載っているから、とりあえずそれを見てみることから始めるとよいかも知れない)。

*

勉強をはじめて分からないことがあったら、前にも書いたが、担当に先生に遠慮無く質問すること。確かに、不得意な科目の先生の所に行くのは、敷居が高い感じがすることはよく分かる。しかし、先生方も、難しい内容を教えていること、ある程度のスピードで授業を展開せざるを得ない以上、未消化な生徒がいる可能性が大であることは、十分に心得ていらっしゃる。だから、そういう生徒がいるなら、むしろ積極的に申し出てもらいたいわけだし、個別指導して分かってもらいたいと思っていらいっしゃるのである。繰り返すが、遠慮なく質問しに行こう。(考査直前は混雑するから早めに…)

それでも敷居が高いと思う人は、まずは友だちに聞いてみよう。誰にでも得意・不得意はあるのだから、変なプライドは捨てること。日比谷には、「こいつに対してならプライドを捨てたって仕方ない」と思える優秀な諸君がいるはずだ。ぜひ、そういう友だちに質問してみよう。質問された方は、不得意な人にも分かりやすく説明できるかが問われていると考えて、きちんと説明してみよう。説明すること自体が試験の準備になるのだ。友だち同士で高め合うことは、結局は日比谷全体の向上に結びつく。しっかり考査に取り組もう。